

**岐阜大学応用生物科学部附属
岐阜フィールド科学教育研究センター報告**

第 5 号

**Annual Report of Gifu Field Science
Center, Faculty of Applied Biological
Sciences, Gifu University**

No.5

2010.8

岐阜大学応用生物科学部附属
岐阜フィールド科学教育研究センター
Gifu Field Science Center,
Faculty of Applied Biological Sciences,
Gifu University

目次

第1章 業務実績 3

植物部門 3

作物	3
花卉	3
果樹	5
蔬菜	9
農産製造	10

動物部門 10

酪農	10
肉牛(美濃加茂農場)	12
養鶏	13
畜産製造	14

森林部門 14

(1) 気象現象	14
(2) 災害	14
(3) 倒木処理	15
(1) 気象現象	15
(2) 災害	15
(3) 倒木処理	15
(4) 林道維持	16
(5) 作業道新設	16
(6) 林道・境界刈払い	17
(7) 保育作業及び収穫	17
(8) 実習	18
(9) 施設・維持管理	19
(10) 大学キャンパス整備	20
(11) 調査	21
平成21年度 位山演習林利用者実績	40

平成 21 年度 位山演習林入山者実績	40
平成 21 年度柳戸試験林利用状況	40
公開講座	42
植物部門・動物部門 「食と緑と命の学校」	42
家庭菜園の基礎 理論と実際	42
森林部門	43
第 2 章 研究活動(研究実績リスト)	44
卒業論文	44
修士論文	44
博士論文	44
学術雑誌論文	44
学会発表	45
第 3 章 教育研究レポート	47
フィールドセンターにおける知的障害者雇用の取り組み	47
矢野倫子	47
「家庭菜園の基礎 理論と実際」実施報告	52
神原正昭	52

第1章 業務実績

植物部門

作物

(1) 水稲

水田約 170a に水稲‘ハツシモ’を作付けた。フィールド科学実習の作物プロジェクトで 1 号水田での水温調査などの実習補助もおこない、生育調査と雑草調査などの実習補助をおこなった。また、同実習の環境プロジェクトのため農機実習圃 1 に水稲‘ハツシモ’の不耕起栽培をおこなった。フィールド科学実習の収穫祭用に 3 号水田の一部にもち米（ミノタマモチ）および 1 号水田の一部に黒米もち種を作付けた。また、1 号水田の一部を利用してアイガモロボットの試験補助を行った。同じく、3 号水田の一部を利用して飼料稲の 5 品種作付け試験補助を行った。水田圃場を有効利用するため、3 号水田の裏作に、酪農部がイタリアンライグラスを作付けた。架掛けした稲ワラは、酪農部と肉牛部（美濃加茂農場）に供用した。農機実習圃 2 は応用植物科学実験および実験法における実習水田として供用した。作物部での公開講座「食と命と緑の学校」として、6 月 3 日(水)に幼稚園児に田植え体験を行った。また、10 月 24 日（土）に稲刈り体験を行った。

(2) 茶

見本用として 1a 栽培していたが、耕地不足のため 3 月にすべてを伐根した。

花卉

(1) 花苗

春・秋の花苗栽培を行った。

《春苗》

- ・ペチュニア
- ・ベゴニア（スカーレット、ホワイト、ピンク、ローズ）
- ・マリーゴールド（フレンチ：オレンジボーイ、イエローボーイ、スプレーボーイ）

イ)

- ・メランポディウム（ミリオンゴールド、ミリオンレモン）
- ・サルビア（スカーレット、ホワイト、バイオレット）

- ・ニチニチソウ
- ・アスター（改良くれない、白くれない、紫）
 - ・テルスター（スカーレット、ピコティ、ピンク、ホワイト）

《秋苗》

- ・ハボタン（紅すずめ、白すずめ、紅はと、白はと、初紅、初夢）
- ・パンジー（LR オトノ：スカーレット、パープル、イエロー、LR プリン）
- ・ビオラ（フルーナ：アプリコットシェード、パープル&イエロー、ブルースワール）

(2) 鉢物・観葉植物

鉢花・観葉植物・ラン類の栽培を行った。

栽培植物：アラビアジャスミン・アンスリウム・ウツボカズラ・カーネーション・ガーベラ・金のなる木・木立ベゴニア・君子蘭・ゲンペイカズラ・コエビソウ・コスモス・コーヒー・ゴムの木・サギソウ・サクラソウ・サンセベリア・サンタンカ・シェフレラ・シロスジアマリリス・ストレプトカーパス・スパティフィラム・ドラセナコンシンネ・ドラセナコンパクト・ドラセナリフレクサ・ハイビスカス・パキラ・ブーゲンビリア・ニオイバンマツリ・バラ・フクシア・ベンジャミン・ポトス・ユッカ・ラン類（キンギアナム・シンピジウム・デンドロビウム・リカステなど）

今年度挿し木・株分けした植物：アジサイ・ストレプトカーパス・ゼラニウム・バラ（接木）・フクシア

(3) 切り花

花卉園にて栽培した花を、切り花として販売した。切り花として販売した花：アイリス・グラジオラス・シャクヤク・ダリア・バラ

(3) その他

(a) 附属病院への対応

附属病院への観葉植物の貸し出しを引き続き行った。大鉢観葉（ベンジャミン・シェフレラ・ドラセナ類・ゴムの木など）18鉢を3ヶ月に一度（一年で4回）交換した。また、病院玄関前のプランターに、春・秋に花苗の植え付けを行った。

(b) 春の花市の開催

販売所での売り上げを伸ばすために、通常の販売日とは別の日に春の花市（5/19）を開催した。販売時間は10時30分～15時とし、ポスター・ホームページ等で宣伝

を行った。ペチュニア・マリーゴールドなどの花苗、ゼラニウム・バラなどの鉢花、ベンジャミンなどの観葉植物、野菜苗、合わせて約 60 種類を販売した。昨年の花市（4/22）より開催時期が遅かったため、例年より野菜苗の売れ行きは少なかったものの、当日は天候にも恵まれ、学生や職員、学外からの一般客など多くの方が訪れた。会計を通った客数はのべ 182 名（昨年比+30 名）だった。

果 樹

実習教育の充実のために下記の育成病害管理を伴った果樹栽培を行った。

(1) 梅（紅サシ、剣サキ） 8a

月	生育程度	対象病虫害	薬剤名	作業歴
4	新梢伸長期			
5	果実肥大期	黒星病 カイガラムシ	ベンレート水和剤 スプラサイド水和剤	5/1 薬剤散布 5/11 除草
6				5/12~26 収穫
7 8	花芽分化期			
9 10 11				9/12・13 除草
1		縮葉病 カイガラムシ	石灰硫黄合剤	1/12 剪定 1/18 堆肥散布 1/19 薬剤散布
2	開花期			
3	落花期			

(2)梨 (新水、幸水、豊水)

20a

月	生育程度	対象病虫害	薬剤名	作業歴
4	開花直前 落下期 落下直後	黒星病 赤星病 アブラムシ	ジマンダイセン水和剤 ダイアジノン水和剤	4/20 薬剤散布
5	新梢伸長期 果実親指大期	黒星病 赤星病 アブラムシ	デラン水和剤 ビスダイセン水和剤	5/1 薬剤散布 5/8・9 除草 5/11~18 摘果
6	花芽分化 新梢発育停止	黒星病 赤星病 アブラムシ	スプラサイド水和剤 スコアー水和剤	6/1 ネット張り 6/12 薬剤散布
7	果実肥大期	輪紋病 ハマキムシ シンクイムシ	オキシラン水和剤 シマンダイセン水和剤 ミクロデナポン水和剤 ダイアジノン水和剤	7/10 薬剤散布 7/13 除草
8				
9	収穫後	黒星病 胴枯病 カイガラムシ	オキシラン水和剤 スミチオン乳剤	9/11 薬剤散布
10				10/15 ネット外し
12				1/12~2/15 整枝・剪定・誘引 1/12 堆肥散布
3	萌芽直前	黒星病 輪紋病 カイガラムシ ハダニ	石灰硫黄合剤	3/9 薬剤散布

(3) ブドウ (巨峰)

10a

月	生育程度	対象病害虫	薬剤名	作業歴
4	発芽直前			4/28 芽かき
5	新梢伸長期	黒とう病 晩腐病 灰色かび病 スリップス	アリエッティC水和剤 スプラサイド水和剤	5/1 薬剤散布 5/12 除草 5/19 から 29 摘房・芽かき・誘引 5/19 ジベレリン処理 5/29 ジベレリン処理
6	開花期 落花直後	黒とう病 晩腐病 灰色かび病 べと病 スリップス	ビスダイセン水和剤 アドマイヤー水和剤	6/10 薬剤散布 6/12 除草 6/23 袋掛け
7	着色始期	べと病 さび病 コナカイガラ ムシ	トップジンM水和剤 ダイアジノン水和剤	7/10 薬剤散布 7/13 除草
8				8 / 28 から収穫
9	収穫後	べと病 黒とう病	ビスダイセン水和剤 スプラサイド水和剤	9/30 薬剤散布
10				
12				1/12 堆肥散布 2/11 から 21 整枝・剪定
3		黒とう病 晩腐病 つる割病	石灰硫黄合剤	3/9 薬剤散布

(4)柿 (富有 その他) 30a

月	生育程度	対象病虫害	薬剤名	作業歴
4	新梢伸長期			
5	開花期 落花期	炭そ病 うどうこ病 カイガラムシ ハマキムシ	ベンレート水和剤 スプラサイド水和剤	5/1 薬剤散布 5/12 除草 5/12 から 20 摘果
6				6/12 除草
7	果実肥大期	炭そ病 落葉病 ハマキムシ カイガラムシ	シマンダイセン水和剤 スミチオン水和剤	7/10 薬剤散布 7/13 除草 摘果
8	花芽分化期			
9				
10				10/30 除草
11				10/19 から 11/30 収穫
12				1/12 堆肥散布 2/12 から 25 整枝・剪定
3		炭そ病 カイガラムシ	石灰硫黄合剤	3/9 薬剤散布

(5)その他

ブルーベリー 収穫 6/12～9/6

すもも 収穫 7/3～14

整枝・剪定 2/1～2/8

蔬 菜

(1) 露地栽培

(a) 果菜類

カボチャ、ナス、ピーマン、シシトウ、トマト、スイカ(大玉、小玉、種無し)、トウガラシ(うまから)、オクラ、ダイズ、アズキ、ジャンボラッカセイ

(b) 葉菜類

ネギ、タマネギ、レタス

(c) 根菜類

サトイモ、サツマイモ、ダイコン、ジャガイモ、コンニャク

(2) 施設栽培

(a) 1号ハウス

春作：トマト

秋作：ホウレンソウ

(b) 2号ハウス

春作：トマト

秋作：ホウレンソウ、タマネギ(苗)

(c) 実証ハウス

春作：トマト

秋作：ホウレンソウ

(3) その他

(a) 地力増進

牛糞堆肥、鶏糞の投入、すき込みを行った。

(b) 低農薬栽培の促進

除草作業に除草剤の使用を中止し肩掛け式草刈機で行った。防虫テープやシルバーマルチによるアブラムシの防除、並びに夏期におけるハウス密閉によるオンシツコナジラミの防除を行った。

(c) 青枯病に強い接木苗の購入

ハウストマトの青枯病の蔓延のため、10年度から、春作は桃太郎8で台木はガンバル根を使用した。

(d) 生協の食堂にトマト、ジャガイモ、サツマイモ、ダイコン、ホウレンソウを出荷した。

農産製造

(1) 甘粕漬(ダイコン)

原材料は農場で生産した大根(耐病総太り)を用い、11月中旬から下旬にかけて6回の学生実習で製造し、製品は12月下旬に販売した。

(2) オレンジマーマレード

我が国で一般に好まれるスウィートマーマレードを、学生実習で4回製造し、製品は販売した。原材料として輸入オレンジを使用した。

(3) 梅干

果樹園で生産した梅を実習で加工製造し、製品は販売した。

(4) レモンケーキ

学生実習で4回製造し、製品は試食した。

(5) 水ギョウザ

教育学部の栽培学実習で、自分たちが作った野菜(ニラ)を使い加工製造し、製品は試食した。

動物部門

酪農

(1) 牛(乳用牛・ホルスタイン種)

年平均15頭を飼育管理し乳生産と後継牛の育成を行った。

(a) 頭数の変動

初妊牛1頭が1月に分娩し搾乳牛が1頭増加した(No.116)。

7月にNo.79を獣医実習牛にした。

(b) 産乳成績(表参照)

年間搾乳牛頭数平均14頭から総産乳量約90,000kgを生産した。

(c) 繁殖成績

本年度内の分娩回数は11回でホルスタイン9頭、F11頭合わせて10頭の子牛が産まれた。その内、後継牛として6頭を残した。

本年度内に受胎した頭数は7頭だった。

(2) 飼料作物

イタリアンライグラスは2番草まで収穫しすべてロールサイレージにした。
ヒエ、雑草の乾草を作成した。

(3) 実習

(a) 生産環境科学課程フィールド科学実習Ⅱ・Ⅲ

搾乳・給餌・ブラッシング・体尺等の実習を行った。

(b) 獣医学課程

牧場実習で搾乳、給餌の実習を行った。

(c) 生産環境科学課程

動物行動管理学実験で搾乳、給餌の実習を行った。

(d) 教育学部技術課程

栽培学実習で搾乳、給餌の実習を行った。

(e) 食品生命課程

搾乳、給餌の実習を行った。

平成 21 年度 乳牛個体別産乳成績 (k g)

No	産次	分娩月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
79	9	2008/1/28	489	452	387	64									1,392
86	5	2008/12/8	720	668	641	558	485	502	551	498	480	453	364	372	6,291
87	4	2009/9/7	462	422	62			628	873	835	786	725	618	647	6,058
91	6	2010/1/2	612	603	522	484	334	264	7			933	1,053	1,124	5,934
93	6	2010/2/10	732	660	559	563	542	459	271				574	937	5,297
95	4	2009/10/19	449	456	410	345			369	997	1,056	1,100	921	950	7,053
98	3	2010/3/30	660	641	630	537	495	584	660	645	672	223		41	5,787
99	4	2009/10/7	605	587	530	395			663	905	857	894	731	734	6,901
101	2	2009/7/10	85			459	772	810	827	743	682	646	553	594	6,171
102	2	2009/6/3	27		593	715	678	728	719	681	680	616	492	493	6,422
106	4	2009/3/17	922	983	971	902	749	793	712	649	669	645	556	626	9,175
110	2	2009/11/15	610	695	613	545	509	393		420	1,004	970	754	812	7,326
111	1	2008/12/27	585	579	515	506	521	516	594	551	575	500	455	475	6,371
116	1	2010/1/3										864	985	932	2,781

124	3	2009/2/26	1,029	946	875	672	595	669	748	596	434	393	348	360	7,665
月間搾乳量			7,986	7,691	7,308	6,743	5,681	6,345	6,994	7,521	7,895	8,961	8,403	9,096	90,622
kg/日			266	248	244	218	183	212	226	251	255	289	300	293	248

肉 牛(美濃加茂農場)

(1) 牛(肉牛)

年間を通じ、黒毛和種の繁殖・育成・肥育の一貫生産を行った。肉質の向上や繁殖成績の改善をするため粗飼料の確保、濃厚飼料の給与量の改善に努めた。宿泊実習では、給餌、清掃による一般管理、畜舎内の洗浄・消毒による衛生管理、牛のブラッシング等の手入れや体尺測定、放牧場での家畜の追い込み・確保を二人一組で体験。ロープワークも取り入れた。

実験終了に伴う売払肥育牛について、美濃加茂農業協同組合と和牛委託販売契約を結び、枝肉市場への出荷も行っている。

(2) 飼料作物 (イタリアンライグラス (コモン種・イナズマ))

播種時の耕起の反復および有機肥料(堆肥の還元)による飼料作物の生産を行い、良質粗飼料の確保に努めた。5月の天候は夏日が短期あり、ロールサイレージを262梱包(約150キロ/梱包)作成した。6月には2番草でロールサイレージを42梱包作成。8月に乾草を948梱包(約18キロ/梱包)作成した。宿泊実習では、トラクターによる圃場の耕起、けん引作業を体験させた。

21年度肉用牛飼養管理頭数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	3月末
成牛	21	21	23	24	24	24	24	23	23	23	24	21	25
〈内訳〉													
繁殖用	18	18	19	19	19	19	19	19	19	19	19	18	20
肥育用	3	3	4	5	5	5	5	4	4	4	5	3	5
育成牛	13	14	12	11	11	10	10	14	15	15	18	19	18
分娩	1	1					4	1		4	1	3	
導入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
売払肥育牛					1		1				2		
死亡牛		1									1		
合計	34	35	35	35	35	34	34	37	38	38	42	40	43

※ 育成牛は、生後16日以上18ヶ月未満 成牛は、18ヶ月以上

- 5/3 育成牛（H21.3.22 生）発育不良で死亡
- 8/24 肥育牛(黒毛和種)1頭 枝肉市場（格付 A-5）
- 10/26 肥育牛(黒毛和種)1頭 枝肉市場（格付 A-5）
- 2/22 肥育牛(交雑牛)2頭 枝肉市場（格付 B-2・B-2）
- 2/23 繁殖牛 子宮脱で死亡

養 鶏

(1) 採卵鶏

- 21年7月に、奥美濃古地鶏の中雛60羽を導入した
- 21年7月に、第二無窓鶏舎の鶏を廃鶏処分した
- 21年10月に、ハイラインマリアの秋雛749羽を導入した

(2) 実習

(a) 生産環境科学課程1年次フィールド実習

プロジェクト学習は、飼育環境の高低が産卵率、卵質に及ぼす影響について経時的な調査実験を行った

鶏の解体、燻製作りの体験実習を行った

ニューカッスル病、伝染性気管支炎のワクチン接種及び集卵、卵質検査を行った

奥美濃古地鶏の飼養管理を行い、鶏の生態を学んだ

(b) 生産環境科学課程3年次動物管理学実験

老鶏、若鶏の集卵、卵質検査を行い、週令による産卵率、卵質への影響を経時的に調査、比較した

(c) 教育学部技術教育講座3年生「栽培学及び実習」

鶏の解体、燻製作りの体験実習を行った

(3) その他

(a) 教員免許更新講習 6月28日（日）

鶏の解体、燻製製作の体験を行った

(b) 公開講座「食と緑の命の学校」 11月3日（土）

「卵から生まれる新しい命を学ぶ」親子教室。参加者7組、18名

土井教授による講義、様々な動物の卵殻の観察、自家製マヨネーズの作成、黄身と白身が反転した黄身返し卵の作成体験を行った

21 年度産卵鶏月別飼養羽数（羽）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
無窓第1鶏舎	371	372	372	370	369	368	365	351	351	351	349	349
無窓第2鶏舎	357	353	316									
古地鶏舎	54	54	54	60	60	60	60	60	59	58	57	57
育雛舎							744	741	739	739	739	739
合計	782	779	742	430	429	428	1169	1152	1149	1148	1145	1145

※ 平成 21 年 7 月 8 日 奥美濃古地鶏大雛 60 羽導入

※ 平成 21 年 10 月 27 日 ハイラインマリア初生雛 749 羽入雛

畜産製造

(1) アイスクリーム

大学農場内で生産した生乳 70～80ℓ を使用して、年 8 回の学生実習によりソフトクリーム 150 本／回を製造した。また 4 月に農場主催の「春の花市」150 本／回。8 月のオープンキャンパスに試食用としてカップ 317 個。10 月に学祭用アイスクリーム 208 個販売とアマランサスアイスの試作品を 2 回製造した。

(2) ヨーグルト

試食用として食品加工実習で年 4 回製造した。

(3) 生キャラメル

試作用として 1 回。食品加工実習として 1 回製造した。

森林部門

(1) 気象現象

今年度は、大きな台風の通過はなかった。降雪は、昨年より少なく、ここ近年でも少なかった。演習林事務所の最大積雪深は 45cm で、から谷作業場の最大積雪深は 70cm であった。

(2) 災害

今年度、大きな災害はなかった。

(3) 倒木処理

林道、歩道に倒れ込んだ倒木の処理を随時実施。

(1) 気象現象

今年度は、大きな台風の通過はなかった。降雪は、昨年より多く、演習林事務所の最大積雪深は 80cm で、から谷作業場の最大積雪深は 115cm であった。

(2) 災害

今年度は 3 林班の量水堰堤で土石流が起こった。その後、量水堰堤に流れ込んだ土石の除去作業を行い堰堤の復旧に努めた。



土石流



作業風景

(3) 倒木処理

林道、歩道に倒れ込んだ倒木の処理を随時行った。特に春先は、林道・歩道を巡回し雪害木の処理を行った。

(4) 林道維持

落石処理

4月10日～4月27日まで集中的に落石処理をした。また、定期的に林道を巡回しその都度、落石処理なった。



作業風景

(5) 作業道新設

2林班り小班に作業道を新設した。この小班では22年度に収入間伐を予定している為、学生実習、木材搬出に使用するため新設した。



新設前の人工林



新設した作業道

(6) 林道・境界刈払い

林道については、法面のササ等の刈り払いを行った。歩道についてもササ等の刈り払いを行った。境界については、国有林、民有林が隣接しているため境界が解るようにササ等を刈り払い、境界の維持に努めている。また、作業は7月中旬以降のササが生え揃ってから行うようにしている。



刈払前



刈払後

(7) 保育作業及び収穫

除伐

7林班る、わ小班の一部において、今年度に枝打ち・間伐を行う為、ササ刈を含めて行った。

除伐・間伐・枝打ち

7林班ち小班(0.90ha)、7林班り小班(1.65ha)、7林班ぬ小班(1.78ha)、7林班る小班(1.98ha)7林班わ小班(2.15ha)のヒノキ人工林において、除伐・間伐・枝打ちを同時に施業した。

間伐

2林班た小班(2.70ha)のヒノキ・スギ人工林において、間伐をした。この施業では、間伐した木材をラジキャリーなど林業機械で集材・搬出し下呂木材市場に出荷した。その他の立木は切捨て間伐を行った。



施業前



施業後



ラジキャリー集材



グラップルによる積み込み

(8) 実習

- 新入職員研修 (4月 23～24 日)
- フィールド科学実習 I (5月 22～24 日)
- 野生動物医学実習 (5月 28 ～29 日)
- オープンキャンパス (8月 7 日)
- 食品生命 (8月 27 日)
- 夏季フィールド実習 (9月 9～15 日)
- 全学共通実習 (10月 24～25 日)

新入生記念植樹 (4月 7 日)

21 年度入学式で応用生物化学科学部新入生の記念植樹で桜を植えるための準備と植樹の補助を行なった。



オープンキャンパス



野生動物医学実習



フィールド実習

(9) 施設・維持管理

草刈

事務所周辺の土手など、環境整備として5月18日、9月4日、草刈を実施した。

水源維持

管理棟では谷水を使用している。水源地は事務所から約2キロ山に入ったところにある。梅雨前と秋に水源地の掃除を行い、水源の維持に努めた。

雪下ろし

1月21日に事務所の裏ひさし、トイレ屋根、物置小屋、薪小屋の雪降しを行った。

除雪

降雪時、県道から演習林への道、駐車場などの除雪をタイヤショベル、除雪機を使い行なった。また、保育作業を行うために真ノ俣林道の除雪を行った。



除雪作業風景

(10) 大学キャンパス整備

樹木の移植（平成 21 年 12 月 24～26 日）

応用生物科学部 B 棟入口改修工事が行われるため、邪魔になった樹木 2 本（マテバシイ、シラカシ）を応用生物科学部 A 棟南側の広場の築山に移植した。

築山作り（平成 22 年 2 月 23～24 日）

応用生物科学部 A 棟南側の広場に築山作りを 2 日間の日程で行った。盛上げた土は、動物病院を建てる時に出た残土を利用した。



移植作業風景



移植後



築山作り作業風景



作業後

(11) 調査

収獲調査

今年度は、10 林班（10-1、10-6、10-7、10-9、10-15、10-16）計 6 プロットの調査を行った。

プロット名称	1 回目	2 回目	3 回目	4 回目
12-01	1984	1990		
12-02	1984	1989		
12-03	1984	1990		
11-01	1982	1987		
11-02	1984	1988		
11-03	1984			
11-04	1982	1987		

11-05	1984	1989		
11-06	1978	1984		
11-07	1977	1987		
11-08	1977	1987		
11-09	データなし			
11-10	1984	1988		
10-01	1978	1984	1988	2009.06.01
10-02	1982	1987	再調査不可	
10-03	1982	1987	再調査不可	
10-04	1984	1988	再調査不可	
10-05	1978	1984	2009.06.01	
10-06	1978	1984	1988	2009.06.26
10-07	1977	1984	1987	2009.06.26
10-08	1979	1984	再調査不可	
10-09	1984	2009.06.26		
10-10	1979	1984	再調査不可	
10-11	1984	再調査不可		
10-12	1979	1984	再調査不可	
10-13	1978	1984	再調査不可	
10-14	1984	1988	2009.06.26	
10-15	1984	2009.06.26	再調査不可	
10-16	1984	2009.06.26	再調査不可	
09-01	1984	1989	再調査不可	
09-02	1977	1982	1978	2008.04.14
09-03	1984	1989	2008.04.14	
09-04	1984	2008.04.14		
09-05	1984	2008.04.14		
09-06	1984	2008.04.04		
09-07	1984	1989	2008.04.04	再調査不可
09-08	1984	2008.04.04		
09-09	1977	1982	1987	再調査不可
09-10	1984	1989	再調査不可	
07-01	1980	2008.03.28		
07-02	1980	2008.03.28		
07-03	1988	2008.04.01		

07-04	1988	2008.04.02		
03-01	1984	2008.04.15		
03-02	1984	2008.04.15		
03-03	1980	再調査不可		
03-04	1988	再調査不可		
03-05	1988	再調査不可		
03-06	1988	再調査不可		
03-07	1980			
02-01	1984	1988	2007.06.11	
02-02	1978	1984	2007.06.11	
02-03	1984	1989	再調査不可	
02-04	1978	1984	1988	2007.06.18
02-05	1978	1984	2007.06.19	
02-06	1977	1982	2007.06.13	
02-07	1984	再調査不可		
02-08	データなし			
02-09	1984	1989	2007.06.18	
02-10	1977	1982	2007.06.13	
02-11	1977	1982	2007.06.21	
02-12	1984	2007.06.13		
02-13	1984	1989	2007.06.20	
02-14	1984	1989	2007.06.19	
02-15	1977	1982	2007.06.21	
02-16	1978	1984	2007.06.21	
02-17	1978	1984	1989	2007.06.12
02-18	1984	再調査不可		
01-01	1984	1989	2006.08.08	
01-02	1978	1984	1988	2007.06.08
01-03	1978	1983	2007.06.08	
01-04	1988	2007.06.11		

ブナ天然更新調査

1 林班い小班において、ブナの天然更新の調査を前年度に引続き行った。18年度、ササを全刈しておいた約10aほどの面積に1m×1mのプロットを100プロット設定した。対称区はササ刈をしない場所に1m×1mのプロットを100プロット設定した。



調査地



ミズナラ稚樹

調査日	2007. 11.7		2008.8.13		2009.9.3	
	本 数(本)	樹高(cm)	本 数(本)	樹高(cm)	本 数(本)	樹高(cm)
コハウチワカエデ	17	1.5~11.5	39	2.0~15.5	36	1.0~23.0
コミネカエデ	2	5.0~6.5	2	6.0~9.0	1	17.0
ミズメ	5	2.5~10.0	14	2.0~19.0	54	1.5~44.0
コシアブラ	1	2.5	1	3.0	1	14.0
コハクウンボク	1	13.0	1	8.0	1	10.0
タムシバ	3	3.0~10.5	49	2.0~11.0	64	3.0~18.0
シナノキ			3	4.0~8.0	155	1.0~11.0
ミズキ	1	14.0	4	6.0~18.0	6	5.5~20.0
ミズナラ			8	4.0~11.0	6	3.0~11.0
センノキ					2	5.0~6.0
アオハダ			3	2.0~10.0	9	4.0~23.0
ホオノキ			1	14.0	1	5.0
タラ			1	2.0	9	2.0~7.5
クロモジ	3	5.0~11.0	3	8.5~16.0	1	18.0
ツタウルシ			1	8.0	1	6.0
ツタ					3	8.0~15.0

?			57	1.0~11.0	86	1.0~16.0
計	33		187		436	

枯	0		5		80	(+75)
---	---	--	---	--	----	-------

積雪量調査

水曜日 測定

	事務所	カラ谷 1	カラ谷 2	備考
12月17日	10	-	-	初雪
12月18日	35	40	30	
12月21日	80	-	-	
12月22日	80	80	65	
12月23日	-	-	-	
12月28日	30	60	60	
12月30日	-	-	-	
1月4日	50	75	60	
1月6日	-	-	-	
1月7日	55	85	75	
1月13日	50	80	65	
1月14日	80	105	85	
1月20日	60	88	70	
1月27日	70	75	55	
2月3日	70	100	70	
2月8日	75	115	55	
2月10日	55	95	50	
2月17日	50	90	45	
2月25日	40	75	35	
3月3日	0	30	0	
3月10日	15	40	25	
3月17日	0	5	0	
3月23日	0	0	0	
3月24日	-	-	-	
3月31日	0	0	0	
4月7日	0	0	0	
4月14日	0	0	0	

年	月	日	天候	人員	補員	事業種別	個所	作業種	所要人数
21	4	1	水 雨曇	3		管理		事務処理	2
						管理	岐阜大学	出張(研修)	1
21	4	2	木 晴	3		保育	7.つ	枝打ち間伐	2
						管理	岐阜大学	出張(研修)	1
21	4	3	金 晴	3		管理		新入生植樹準備	2
						管理	岐阜大学	出張(研修)	1
21	4	4	土 晴						
21	4	5	日 晴						
21	4	6	月 晴	3		管理	岐阜大学	新入生植樹準備	3
21	4	7	火 晴	3		管理	岐阜大学	新入生植樹	3
21	4	8	水 晴	3	1	保育	7.つ	枝打ち間伐	4
21	4	9	木 晴	3	1	保育	7.つ	枝打ち間伐	2
						林道維持	真之俣線	落石処理	1
						林道維持	真之俣線	側溝掃除	1
21	4	10	金 晴	3	1	林道維持	カラ谷線	落石処理	2
						林道維持	窯木線	落石処理	1.5
						実習準備	7 林班	下見	0.5
21	4	11	土 晴						
21	4	12	日 晴						
21	4	13	月 晴曇	3	1	林道維持	カラ谷線	落石処理	2
						林道維持	釜木線	落石処理	1
						管理	岐阜大学	出張(研修)	1
21	4	14	火 雨	3		管理		事務処理	0.5
						管理	萩原町尾崎	資材購入	0.5
						管理		ベンチ製作	2
21	4	15	水 晴	3	1	林道維持	カラ谷線	落石処理	3
						林道維持	7 林班作業道	落石処理	1
21	4	16	木 曇	2		林道維持	カラ谷線	落石処理	2
21	4	17	金 曇晴	3	1	林道維持	12.ち	落石処理	2
						林道維持	カラ谷線	落石処理	2
21	4	18	土 晴						

21	4	19	日	晴						
21	4	20	月	曇晴	3	1	林道維持	カクラ線	落石処理	4
21	4	21	火	晴	3		管理		新入職員研修準備	1.5
							管理		油脂庫ドアペンキ塗	0.5
							管理		事務処理	1
21	4	22	水	晴	3		林道維持	カクラ線	落石処理	3
21	4	23	木	晴	3	1	管理		新入職員研修	2
							管理	曲り木	ハウス、PC-25 運搬	1
							林道維持	曲り木	落石処理	1
21	4	24	金	晴曇	3		管理		新入職員研修	1.5
							調査	10 林班	収穫調査下見	1.5
21	4	25	土	雨						
21	4	26	日	雨						
21	4	27	月	晴	3	1	林道維持	曲り木	落石処理	3
							管理		事務処理	0.5
							調査	10 林班	収穫調査番号付	0.5
21	4	28	火	晴	2		林道新設	2.り	作業道新設	2
21	4	29	水	晴						
21	4	30	木	晴	3		林道新設	2.り	作業道新設	3
21	5	1	金	晴	3	1	管理		職員人事シート作成	0.5
							林道新設	2.り	作業道新設	2.5
							調査	2.り	22 年度収入間伐調査	1
21	5	2	土	晴						
21	5	3	日	晴						
21	5	4	月	晴						
21	5	5	火	曇						
21	5	6	水	曇雨						
21	5	7	木	雨	3		実習準備	10.る	実習地笹刈など	1
							管理		事務処理など	1
							管理		施設管理(ボイラー取外)	1
21	5	8	金	曇	3	1	調査	10	収穫調査番号付	3.5
							管理	萩原町尾崎	資材購入	0.5
21	5	9	土	晴						
21	5	10	日	晴						
21	5	11	月	晴	3		林道新設	2.り	作業道新設	3
21	5	12	火	曇	3		林道新設	2.り	作業道新設	3

21	5	13	水	曇晴	3		林道新設	2.り	作業道新設	3
21	5	14	木	晴	3		林道新設	2.り	作業道新設	2
							講習	高山市	チェンソー安全講習	1
21	5	15	金	晴	3		林道新設	2.り	作業道新設	2
							講習	高山市	チェンソー安全講習	1
21	5	16	土	曇雨						
21	5	17	日	雨						
21	5	18	月	晴	3		管理	宿舍	環境整備	1.5
							林道維持	真ノ俣、カクラ	落石処理	1.5
21	5	19	火	晴	3		林道新設	2.り	作業道新設	3
21	5	20	水	晴	2		林道新設	2.り	作業道新設	2
21	5	21	木	曇	3		林道新設	2.り	作業道新設	2
							実習準備		機械移動・準備など	1
21	5	22	金	雨	3		実習	下呂	フィールド科学実習 I	3
21	5	23	土	晴	3	1	実習		フィールド科学実習 I	4
21	5	24	日	雨	3	1	実習		フィールド科学実習 I	4
21	5	25	月	晴	3	1	林道新設	2.り	作業道新設	3
							講習	岐阜大学	刈払機安全講習	1
21	5	26	火	晴	1	1	管理	事務所周辺	環境整備	1.5
							管理	2.り	PC-25,運搬車移動	0.5
21	5	27	水	晴雨	3		林道新設	2.り	作業道新設	3
21	5	28	木	曇	3		管理		センター報告作成	1
							管理		ベンチ作成	1
							管理		機械器具修理	1
21	5	29	金	晴曇	3		実習		野生動物医学実習	2
							管理		センター報告作成	1
21	5	30	土	曇雨						
21	5	31	日	雨						
21	6	1	月	晴	2	1	調査	10 林班	収穫調査	3
21	6	2	火	晴	3		林道新設	2.へ	作業道新設	3
21	6	3	水	曇	1	1	林道新設	2.へ	作業道新設	2
21	6	4	木	曇	3		林道新設	2.へ	作業道新設	3
21	6	5	金	曇	2		管理		事務処理	1
							管理		GPS データ処理	1
21	6	6	土	曇						
21	6	7	日	晴						

21	6	8	月	晴雨	3	1	林道新設 管理	2. へ	作業道新設 ロゴソール製材	2	2
21	6	9	火	曇	3		林道新設	2. へ	作業道新設	3	3
21	6	10	水	曇雨	3	1	林道新設 管理	2. に	作業道新設 ロゴソール製材	2	2
21	6	11	木	雨晴	3		管理		ベンチ製作	3	3
21	6	12	金	晴	3		林道新設	2. に	作業道新設	3	3
21	6	13	土	曇							
21	6	14	日	曇							
21	6	15	月	晴雨	3	1	林道新設	2. へ	作業道新設	4	4
21	6	16	火	曇	3		林道新設	2. へ	作業道新設	3	3
21	6	17	水	曇	3	1	林道新設	2. へ	作業道新設	4	4
21	6	18	木	雨曇	3		管理		ロゴソール製材	3	3
21	6	19	金	晴	3		林道新設	2. へ	作業道新設	3	3
21	6	20	土	曇							
21	6	21	日	雨晴							
21	6	22	月	雨	3	1	管理	岐阜大学	定期・特別健康診断	4	4
21	6	23	火	晴	3		管理	事務所周辺	環境整備	3	3
21	6	24	水	晴	3	1	生産	事務所周辺	素材整理	4	4
21	6	25	木	晴	2		管理	事務所周辺	環境整備	1	1
							林道維持		側溝掃除	1	1
21	6	26	金	晴	3		調査	10 林班	収穫調査	3	3
21	6	27	土	晴							
21	6	28	日	晴							
21	6	29	月	曇雨	3		調査	2 林班り・へ	収入間伐立木調査	3	3
21	6	30	火	雨曇	3	1	調査	9 林班	小見山先生調査補助	1	1
							調査	2 林班へ	収入間伐立木調査	2	2
							管理	岐阜大学	胃診断	1	1
21	7	1	水	雨	3	1	管理		データ入力	1	1
							歩道維持		歩道刈払い	2	2
							管理		5ヵ年事業計画作成	1	1
21	7	2	木	雨曇	3		管理		データ入力他	1	1
							管理	7 林班	ベンチ製作	1	1
							調査	2 林班へ	収入間伐立木調査	1	1
21	7	3	金	曇	3		管理	岐阜大学	センター会議出席	1	1
							調査		GPS データ収集	1	1

							歩道維持		歩道刈払い	1
21	7	4	土	曇						
21	7	5	日	曇						
21	7	6	月	雨	3	1	管理		環境整備	1
							管理		機械整備	1
							林道維持	真ノ俣線	林道側刈払	2
21	7	7	火	雨曇	3		管理		車庫整頓	2.5
							管理		物品購入	0.5
21	7	8	水	雨	3		管理	下呂木材市場	木材市	0.5
							管理	7 林班	ベンチ製作	2.5
21	7	9	木	雨	3	1	管理		溝掃除 他	3
							林道維持		危険木伐採	1
21	7	10	金	雨曇	3		歩道維持		歩道刈払い	2
							管理	7 林班	ベンチ製作	1
21	7	11	土	曇						
21	7	12	日	曇						
21	7	13	月	雨曇	3	1	林道維持	カクラ線	林道側刈払	4
21	7	14	火	曇	3		歩道維持	1、4 林班	歩道刈払い	1.5
							境界維持	1～4 林班	境界刈払	1.5
21	7	15	水	曇	3	1	歩道維持	3、7、8、9 林班	歩道刈払	2
							林道維持	カラ谷線	林道側刈払	2
21	7	16	木	曇	1		林道維持	カクラ線	林道側刈払	1
21	7	17	金	雨	3		管理	下呂市小坂	物品購入	0.5
							管理		ベンチ製作	2.5
21	7	18	土	雨						
21	7	19	日	雨						
21	7	20	月	曇			海の日			
21	7	21	火	雨	3		林道維持	真之俣線	林道側刈払	3
21	7	22	水	曇	3	1	境界維持	6～8 林班	境界刈払	2
							歩道維持	4、6、7 林班	歩道刈払い	1
							管理		ベンチ製作	1
21	7	23	木	晴	3		歩道維持	9、10、11 林班	歩道刈払い	1.5
							林道維持	カラ谷線	林道側刈払	1
							実習準備		公開講座下見	0.5
21	7	24	金	曇	3		歩道維持	11、12 林班	歩道刈払い	2
							管理		標本作製	1

21	7	25	土	雨							
21	7	26	日	雨							
21	7	27	月	雨	3	1	林道維持	真之俣線	倒木処理		1
							林道維持	カクラ線	林道側刈払		3
21	7	28	火	雨	3		歩道維持	10、11、12 林班	歩道刈払い		1.5
							林道維持	真之俣線	側溝掃除		1.5
21	7	29	水	雨	3		管理	萩原町尾崎	物品購入		0.5
							管理		ボイラー室整頓		2.5
21	7	30	木	晴	3	1	歩道維持	10、12 林班	歩道刈払い		2
							境界維持	7～12 林班	境界刈払		2
21	7	31	金	曇	3		境界維持	5～6 林班	境界刈払		3
21	8	1	土	雨							
21	8	2	日	雨							
21	8	3	月	晴	3	1	境界維持	4～5、12 林班	境界刈払		4
21	8	4	火	晴	3		林道維持	6、7 林班	危険木伐採		2
							管理	岐阜市	玉掛技能講習会		1
21	8	5	水	晴	3		管理	事務所	土場支柱たて		2
							管理	岐阜市	玉掛技能講習会		1
21	8	6	木	晴	2		実習補助	岐阜大学	オープンキャンパス		1
							管理	岐阜市	玉掛技能講習会		1
21	8	7	金	晴	2		実習補助	岐阜大学	オープンキャンパス		2
21	8	8	土	雨							
21	8	9	日	曇							
21	8	10	月	曇雨	1		管理	事務所	土場支柱たて		0.5
							林道維持	3ほ1	ヒューム管土砂除去		0.5
21	8	11	火	晴曇	1	1	林道維持	カクラ林道	土砂敷込		2
21	8	12	水	晴曇	1	1	林道維持	カクラ林道	土砂敷込		2
21	8	13	木	雨					閉庁		
21	8	14	金	晴					閉庁		
21	8	15	土	曇							
21	8	16	日	晴雨							
21	8	17	月	晴	2	1	林道維持	カクラ林道	土砂敷込		2
							林道維持	曲り木	林道側刈払		1
21	8	18	火	晴	3	1	講座準備		標本板作製		1
							生産	2.た	除伐		3
21	8	19	水	晴	3	1	生産	2.た	架線綱張準備		4

21	8	20	木	曇	3		生産	2.た	架線綱張	2
							実習補助	鈴蘭	山地管理学特論	1
21	8	21	金	曇雨	3		実習補助	御岳	山地管理学特論	2
							管理		器具庫整頓	1
21	8	22	土	曇						
21	8	23	日	晴	2		公開講座	10、12 林班	公開講座補助	2
21	8	24	月	晴	3	1	生産	2.た	ラジキャリー集材	3
							管理	岐阜市	クレーン講習会	1
21	8	25	火	曇	3		管理	水源地	ホース入替え	2
							管理	岐阜市	クレーン講習会	1
21	8	26	水	晴	3	1	生産	2.た	収入間伐	3
							管理	岐阜市	クレーン講習会	1
21	8	27	木	曇	3	1	実習補助	11、12 林班	食品生命実習補助	2
							実習準備		フィールド実習打合せ	2
21	8	28	金	曇	3		生産	2.た	ラジキャリー集材	3
21	8	29	土	曇						
21	8	30	日	曇						
21	8	31	月	曇	3		生産	2.た	ラジキャリー集材	3
21	9	1	火	晴	3		生産	2.た	ラジキャリー集材	3
21	9	2	水	晴	1	1	林道維持	真ノ俣線他	落石処理	2
21	9	3	木	曇	2		調査	1 林班	ブナ天然更新調査	2
21	9	4	金	曇	2		管理	事務所周辺	環境整備	1.5
							管理	事務所周辺	職場巡視	0.5
21	9	5	土	晴						
21	9	6	日	晴						
21	9	7	月	晴	3	1	生産	2.た	ラジキャリー集材	4
21	9	8	火	晴	3		生産	2.た	収入間伐	3
21	9	9	水	晴	3	1	実習補助	9.い	フィールド科学実習	4
21	9	10	木	晴	3		実習補助	9.い	フィールド科学実習	3
21	9	11	金	曇	3		管理	9林班	境界調査	1.5
							生産	2.た	収入間伐	1.5
21	9	12	土	雨						
21	9	13	日	晴	3	1	実習補助	1.ろ	フィールド科学実習	4
21	9	14	月	晴	3	1	実習補助	1.ろ	フィールド科学実習	4
21	9	15	火	曇雨	3		実習補助	下呂市萩原	フィールド科学実習	3
21	9	16	水	晴	3	1	管理	山形大学	全国演習林協議会	1

						実習片付		実習片付	1	
						生産	2.た	収入間伐	2	
21	9	17	木	晴	3	管理	山形大学	全国演習林協議会	1	
						生産	2.た	収入間伐	2	
21	9	18	金	晴	1	管理	山形大学	全国演習林協議会	1	
21	9	19	土	晴						
21	9	20	日	晴						
21	9	21	月	晴						
21	9	22	火	晴						
21	9	23	水	晴						
21	9	24	木	晴	2	生産	2.た	収入間伐	2	
21	9	25	金	晴	2	生産	2.た	収入間伐	2	
21	9	26	土	晴						
21	9	27	日	晴						
21	9	28	月	曇	3	1	生産	2.た	センター伐採	4
21	9	29	火	雨	3		調査	データ入力	1	
							管理	ベンチ作成	2	
21	9	30	水	雨	3		調査	データ入力	1	
							生産	素材運搬	2	
21	10	1	木	曇	3		調査	2.た	調査補助	3
21	10	2	金	雨	3		生産		材木整頓	1.5
							生産		素材運搬	1.5
21	10	3	土	曇						
21	10	4	日	晴						
21	10	5	月	曇	3	1	生産	2.た	架線撤収、綱張準備	4
21	10	6	火	曇	2	1	生産	2.た	架線綱張	3
21	10	7	水	曇雨	3		生産	2.た	ラジキャリー集材	2
							管理		機械整備	1
21	10	8	木	雨曇	3		管理		物品購入	0.5
						林道維持	1~12 林班	林内巡視、倒木処理	2.5	
21	10	9	金	晴	3		生産	2.た	ラジキャリー集材	3
21	10	10	土	曇						
21	10	11	日	晴						
21	10	12	月	晴						
21	10	13	火	晴	3	1	生産	2.た	収入間伐	2
							調査	2.た	卒論補助	2

21	10	14	水	晴	3		生産 調査	2.た 2.た	収入間伐 卒論補助	1 2
21	10	15	木	晴	3		生産 調査	2.た 2.た	収入間伐 卒論補助	1 2
21	10	16	金	晴						
21	10	17	土	雨						
21	10	18	日	晴						
21	10	19	月	晴	3	1	生産	2.た	ラジキャリー集材	4
21	10	20	火	曇	3		生産	2.た	ラジキャリー集材	3
21	10	21	水	晴	3		生産	2.た	架線撤収	3
21	10	22	木	晴	3	1	生産	2.た	架線綱張	4
21	10	23	金	晴	3		生産	2.た	ラジキャリー集材	3
21	10	24	土	曇	3	1	実習	7.お	全学共通実習	4
21	10	25	日	曇	2				全学共通実習	2
21	10	26	月	雨	3		管理 管理		機械器具整備、点検 物品購入	2.5 0.5
21	10	27	火	晴	3	1	生産 生産	2.た 2.た	ラジキャリー集材 収入間伐	2 2
21	10	28	水	晴	2	1	生産	2.た	収入間伐	3
21	10	29	木	晴	3		生産 林道維持	2.た 2.た	収入間伐 作業道土砂敷込み	2 1
21	10	30	金	晴	3		生産	2.た	ラジキャリー集材	3
21	10	31	土	晴						
21	11	1	日	曇						
21	11	2	月	曇曇	2	1	生産	2.た	ラジキャリー集材	3
21	11	3	火	曇						
21	11	4	水	晴	3	1	管理		機械器具点検、整備 山神祭及び準備	2 2
21	11	5	木	曇	3		生産	2.た	ラジキャリー集材	3
21	11	6	金	晴	3		生産	2.た	ラジキャリー集材	3
21	11	7	土	晴						
21	11	8	日	曇						
21	11	9	月	曇	2	1	生産	2.た	ラジキャリー撤収	3
21	11	10	火	曇	3	1	実習 管理	岐阜大学 岐阜大学	環境デザイン学実習 新入職員研修	3 1
21	11	11	水	雨	3		管理		事務処理	1

							管理		整炭	2
21	11	12	木	曇	3		生産	2.ぬ	送電線支障木搬出	3
21	11	13	金	曇	3	1	生産	2.ぬ	送電線支障木搬出	4
21	11	14	土	雨						
21	11	15	日	曇						
21	11	16	月	曇	3	1	生産	2.ぬ	送電線支障木搬出	3
							生産		送電線支障木整理	1
21	11	17	火	雨	3		生産		送電線支障木整理	2.5
							管理	下呂市萩原	ダンプタイヤ交換	0.5
21	11	18	水	晴	3	1	生産	2.た	素材整理	4
21	11	19	木	曇	3		生産	2.た	素材整理	2
							生産	下呂市小坂	素材運搬	1
21	11	20	金	曇	3		管理	7林班	機械、素材運搬など	1.5
							管理		機械器具洗浄・整備	1.5
21	11	21	土	曇						
21	11	22	日	曇						
21	11	23	月	曇						
21	11	24	火	曇	3		管理	岐阜大学	樹木の移植	3
21	11	25	水	晴	3		管理	岐阜大学	樹木の移植	3
21	11	26	木	晴	3		管理	岐阜大学	樹木の移植	3
21	11	27	金	曇	3	1	管理	3.ほ1	量水堰堤土砂上げ	2
							生産	2.た	収入間伐後片付け	2
21	11	28	土							
21	11	29	日							
21	11	30	月	晴	2	1	管理	3.ほ1	量水堰堤土砂上げ	3
21	12	1	火	晴	2		管理	3.ほ1	量水堰堤土砂上げ	2
21	12	2	水	晴	3	1	管理	下呂木材市場	木材市	0.5
							管理	3.ほ1	量水堰堤土砂上げ	3.5
21	12	3	木	雨	3		管理	7.る	ハウス、PC-25 移動	2
							管理	7.る	PC-120 移動	1
21	12	4	金	曇	3		保育	7.る	間伐準備(小屋かけ)	3
21	12	5	土	曇雨						
21	12	6	日	曇						
21	12	7	月	曇	2	1	実習準備		炭窯木詰	1
							保育	7.る	除伐	2

21	12	8	火	曇	2		保育	7.る	除伐	2
21	12	9	水	曇	2	1	保育	7.る	除伐	3
21	12	10	木	曇	2		保育	7.る	除伐	2
21	12	11	金	雨	3		管理		冬タイヤ交換	1
								下呂市萩原	物品購入など	1
									器具庫整頓	1
21	12	12	土	曇						
21	12	13	日	曇						
21	12	14	月	曇	2	1	保育	7.る	除伐	3
21	12	15	火	晴	2	1	保育	7.る	除伐	3
									演習林管理業務打	
21	12	16	水	曇	3		出張	岐阜大学	合せ	3
									演習林管理業務打	
21	12	17	木	雪	3		出張	岐阜大学	合せ	3
21	12	18	金	雪	3		管理	水源地	水源地掃除	0.5
							管理	萩原町尾崎	物品購入など	0.5
							管理		機械器具点検、整備	2
21	12	19	土	雪						
21	12	20	日	雪						
21	12	21	月	雪晴	3		管理	事務所周辺	除雪	1
							林道維持	カクラ・真之俣	除雪	2
21	12	22	火	晴	2		林道維持	真之俣・カラ谷	除雪	2
21	12	23	水							
21	12	24	木	晴	3	1		カラ谷	薪作り	4
21	12	25	金	晴	2		出張	岐阜大学	センター会議	2
21	12	26	土							
21	12	27	日							
21	12	28	月	曇	3	1	管理	7林班	屋根雪おろし	4
21	12	29	火							
21	12	30	水							
21	12	31	木							
22	1	1	金							
22	1	2	土							
22	1	3	日							
22	1	4	月	晴	3	1	管理	事務所周辺	除雪	2
							林道維持	カクラ・真之俣	除雪	2

22	1	5	火	雪	1	1	保育	7.ち	枝打ち・間伐	2
22	1	6	水	雪	3		出張	岐阜大学	センター試験説明会	3
22	1	7	木	雪	3		保育	7.ち	枝打ち・間伐	3
22	1	8	金	晴	3		保育	7.ち	枝打ち・間伐	2
							管理		放射性同位元素等 点検	1
22	1	9	土							
22	1	10	日							
22	1	11	月							
22	1	12	火	曇	3	1	管理	労働センター	特別定期健康診断	4
22	1	13	水	雪	3	1	保育	7.ち	枝打ち・間伐	4
22	1	14	木	雪	3		保育	7.ち	枝打ち・間伐	3
22	1	15	金	雪	3		出張	斐太高校	センター試験	3
22	1	16	土	晴	3		出張	斐太高校	センター試験	3
22	1	17	日	晴	3		出張	斐太高校	センター試験	3
22	1	18	月	晴	3		出張	斐太高校	センター試験	3
22	1	19	火	晴	3	1	保育	7.り	枝打ち・間伐	4
22	1	20	水	晴	2	1	保育	7.り	枝打ち・間伐	3
22	1	21	木	雨雪	3		管理		管理棟、屋根雪降し	2
							林道維持	カクラ・真之俣	除雪	1
22	1	22	金	晴	2		林道維持	真之俣・カラ谷	除雪	1
							保育	7.り	枝打ち・間伐	1
22	1	23	土	曇雪						
22	1	24	日	晴						
22	1	25	月	雪	2		保育	7.り	枝打ち・間伐	2
22	1	26	火	晴	3	1	保育	7.ち	枝打ち・間伐	4
22	1	27	水	晴	3		保育	7.り	枝打ち・間伐	3
22	1	28	木	雨	3		管理		下呂ネットサービス工事立会	1
							管理		薪作り	1
							林道維持	カクラ・真之俣	除雪	1
22	1	29	金	曇	3	1	管理		放射性同一元素点検	1
							保育	7.り	枝打ち・間伐	3
22	1	30	土	晴						
22	1	31	日	雪						
22	2	1	月	曇雪	3	1	保育	7.り	枝打ち・間伐	4
22	2	2	火	雪	3		保育	7.り	枝打ち・間伐	3

22	2	3	水	雪	3		保育	7.ぬ	枝打ち・間伐	3
22	2	4	木	雪	3	1	保育 管理	7.ぬ	枝打ち・間伐 事務処理	2 2
22	2	5	金	雪	2		保育	7.ぬ	枝打ち・間伐	2
22	2	6	土	雪						
22	2	7	日	雪晴						
22	2	8	月	曇	3		保育	7.ぬ	枝打ち・間伐	3
22	2	9	火	曇	3		林道維持 管理	真之俣・カラ谷	除雪 薪作り	1 2
22	2	10	水	雨	3	1	講座準備		和かんじき作り	4
22	2	11	木							
22	2	12	金	雨	1		管理 管理	水源地	水源地管理 器具点検・整備	0.5 0.5
22	2	13	土							
22	2	14	日							
22	2	15	月	雪雨	3		保育	7.ぬ	枝打ち・間伐	3
22	2	16	火	曇	2	1	保育	7.ぬ	枝打ち・間伐	3
22	2	17	水	曇	3	1	保育	7.る	枝打ち・間伐	4
22	2	18	木	曇雪	3		管理		パソコン設置など	2
							林道維持	真之俣線	除雪	1
22	2	19	金	晴雪	3		林道維持 管理	真之俣線	除雪 薪作り	1 2
22	2	20	土	晴						
22	2	21	日	晴						
22	2	22	月	曇	3	1	林道維持	真之俣線	除雪	4
22	2	23	火	晴	3		出張	岐阜大学	築山作成	3
22	2	24	水	晴	3		出張	岐阜大学	築山作成	3
22	2	25	木	晴曇	3	1	保育	7.る	枝打ち・間伐	3
							林道維持	真之俣線	除雪	1
22	2	26	金	雨	3		管理		PC 環境整備	2
							林道維持	真之俣線	側溝掃除	1
22	2	27	土	雨						
22	2	28	日	雨晴						
22	3	1	月	曇雨	3		保育	7.る	枝打ち・間伐	3
22	3	2	火	晴	3	1	保育 出張	7.る 岐阜大学	枝打ち・間伐 第 11 回技術報告会	2 2

22	3	3	水	晴	3	1	保育	7.る	枝打ち・間伐	4
22	3	4	木	雨	3		管理	事務所周辺	環境整備	1.5
							公開講座	10、11、12 林班	三重大学	1.5
22	3	5	金	曇	3		保育	7.る	枝打ち・間伐	3
22	3	6	土	雨						
22	3	7	日	雪						
22	3	8	月	曇晴	3	1	保育	7.る	枝打ち・間伐	4
22	3	9	火	雪	3		管理		器具点検・整備	3
22	3	10	水	雪晴	3		管理		小班看板作成	1.5
							管理		ロゴソール製材	1.5
22	3	11	木	曇晴	3	1	保育	7.る	枝打ち・間伐	4
22	3	12	金	曇	2		保育	7.る	枝打ち・間伐	2
22	3	13	土	雨						
22	3	14	日	晴						
22	3	15	月	曇雨	3	1	保育	7.わ	枝打ち・間伐	4
22	3	16	火	曇	3		林道維持	真之俣線	落石処理	1.5
							保育	7.わ	枝打ち・間伐	1.5
22	3	17	水	曇晴	3	1	保育	7.わ	枝打ち・間伐	4
22	3	18	木	曇	3		保育	7.わ	枝打ち・間伐	3
22	3	19	金	晴	2		管理	カラ谷土場	カラ谷土場整理	2
22	3	20	土	晴						
22	3	21	日	雨						
22	3	22	月	晴						
22	3	23	火	曇雨	3	1	管理	カラ谷土場	薪作り	4
22	3	24	水	雨	3	1	管理	カラ谷土場	薪作り	1
							管理	カラ谷土場	カラ谷土場整理	1
							出張	岐阜大学	家畜病院、縦植樹	2
22	3	25	木	雨雪	3		管理	カラ谷土場	薪作り	3
22	3	26	金	曇雪	2		管理	カラ谷土場	ロゴソール製材	1
							管理		タイヤ交換など	1
22	3	27	土	晴						
22	3	28	日	曇雨						
22	3	29	月	晴	3		管理	真ノ股林道	林道側危険木伐採	3
22	3	30	火	晴	3	1	管理	真ノ股林道	林道側危険木伐採	4
22	3	31	水	曇雨	3		管理	真ノ股林道	林道側危険木伐採	3

平成 21 年度 位山演習林利用者実績

利用実績(総表)

(単位:人/日)

利用区分		当該大学	他大学	農林業関係	一般	計
教育研究利用	教員等	56	0			56
	学生	1231	23			1254
上記以外の利用(見学等)		—	—		200	200
計		1287	23	0	200	1510

平成 21 年度 位山演習林入山者実績

利用実績(総表)

(単位:人/日)

利用区分		当該大学	他大学	農林業関係	一般	計
教育研究利用	教員等	58	0			58
	学生	901	12			913
上記以外の利用(見学等)		—	—		631	631
計		959	12	0	631	1602

平成 21 年度柳戸試験林利用状況

棚橋 光彦 ラクウショウ及びシウカンバ・早生キリの育成
平成 21 年 4 月 1 日～
平成 22 年 3 月 31 日

肥後 睦輝 都市環境にみる植生回復状況の観察
平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 8 月 31 日

加藤 正吾 フィールド科学実習Ⅱ・Ⅲにおける池プロジェクト(植生)に

において、トウカエデの種子散布状態

平成21年4月1日～

平成22年1月31日

石田 仁

広葉樹苗の育苗

平成21年4月1日～平成22年3月31日

石田 仁

広葉樹造林（環境デザイン学）

平成21年10月1日～平成22年3月31日

石田 仁

埋土種子発芽試験（卒業研究）

平成21年4月1日～平成22年3月31日

公開講座

植物部門・動物部門 一食と緑と命の学校一

内 容	実 施 期 日	参加人数
田植え体験	平成 21 年 6 月 3 日(水)	一般 80 名
稲刈り	平成 21 年 10 月 24 日(土)	一般 66 名
卵から産まれる新しい命を学ぶ・・・親子教室	平成 21 年 11 月 3 日(火)	一般 16 名

家庭菜園の基礎 理論と実際

回	月日	教員	講義内容
1	5月3日	大場教授 伊藤助教	ガイダンス 野菜栽培の基礎 1
2	5月10日	伊藤助教	野菜栽培の基礎 2
3	6月7日	松井准教授	地球温暖化と稲
4	6月21日	松原准教授	野菜栽培における生物肥料の利用と機能性成分制御
5	7月5日	百町教授	野菜の病害
6	7月19日	中野准教授	野菜の保存と流通
7	8月2日		バーベキュー
8	8月16日		圃場管理
9	8月30日	福井教授	秋野菜の楽しみ方
10	9月13日	神原技術専門職員	家庭菜園の楽しみ方
11	9月27日	田中教授	植物と環境の関係

12	10月18日	三輪名誉教授	農業機械の基礎
13	11月8日	宮川教授	熱帯の野菜礎
14	12月6日	嶋津准教授	高品質・高生産量の野菜栽培を実現するための被覆栽培
15	1月24日	大場教授	鍋

森林部門

内 容	実 施 期 日	参 加 人 数
木の名前を覚えよう	平成21年 8月23日	一般 13名 学生 2名
雪山を歩こう	平成22年 3月4日	三重大学 12名



公開講座 「木の名前を覚えよう」

第2章 研究活動(研究実績リスト)

卒業論文

1. ラオス天水田内のシロアリ塚の資源的利用可能性の検討
2. 赤アマランサスのブランド化に向けた特徴的成分及び品質保持特製の分析
3. 赤アマランサス葉菜の域内流通における品質保持対策の検討
4. 自然侵入促進マットを敷設した林道法面への植生侵入について
5. レジノール型モデル化合物の高圧水蒸気蒸留条件と構造変化の検討
6. 飼料構成の違いが牛乳の成分および風味に及ぼす影響
— 牧草サイレージと製造粕類との比較 —

修士論文

1. 高圧水蒸気蒸留によるスギおよびヒノキ葉部の精油成分の効率的採取
2. 音響モニタリング法による牛の採食行動の解析
3. 飼料構成が牛乳の成分および風味に及ぼす影響
4. 堆肥の施与によるコマツナの連作障害の回避
5. 根頭がんしゅ病と根腐病に対する複合抵抗性台木の育成
6. 園芸植物の複二倍体の育成

博士論文

該当なし。

学術雑誌論文

1. Hnin Yi Soe, Yayota, M. and Ohtani, S.: Effects of molt-induction period on induction of molt and post-molt performance in laying hens. *The Journal of Poultry Science* 46: 203-211, 2009.
2. Yayota, M, Kouketsu, T, Karashima, J, Nakano, M. and Ohtani, S. : Effect of mobile bag and sample sizes on intestinal digestibility of forage in sheep. *Asaian-Australasian Journal of Animal Science* 22:1620-1624, 2009.
3. 藤田孝・内山稔之・八木泰彦・福井博一: アリストロメリアの花茎シュートの頂端分裂組織を用いた大量増殖. *植物環境工学* 22: 22-28. 2010.
4. Yu, W. , R. Kitamura, K. Kato, L. Li and H. Fukui. A computer program for automatic watering based on potential evapotranspiration by penman method and predicted leaf area in miniature pot rose production. *Agricultural Sciences in*

Chaina 9:370-377. 2010

5. 石黒 泰, 熊谷淳逸, 福井博一: バーク堆肥の堆積日数とアンモニアを有機化する微生物活性との関係. 廃棄物学会論文誌 20:61-67. 2009.
6. Yin, L., W. Zhou, K. Motohashi, H. Suga, H. Fukui and K. Kageyama. Development of microsatellite markers for *pythium helicoides*. FEMS Microbiol. Lett. 293:85-91. 2009.

学会発表

1. Harada, M. and S. Miyagawa: Solar Light Intensity and Rice Growth around Trees. International Symposium "Tree-Rice Ecosystem in the Paddy Fields of Laos".
2. Nakano, K., C. Takahashi, S. Oba, T. Shimazu and T. Okayasu: Investigation of chilling sensitivity and effect of water soaking treatment on the quality of amaranth leaves. Proc. of the 5th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agricultural and Biosystems Engineering 2010, April 2010, (Fukuoka).
3. 浅井淳子、鎌田将利、葭谷耕三、棚橋光彦・高圧水蒸気蒸留法によって得られたスギ・ヒノキ葉部の蒸留成分の効率的利用・2009年度日本木材学会中部支部大会講演要旨集 (名古屋) pp.56-57
4. 田原聡恵, 中村晋平, 前野和也, 薩如拉, 棚橋光彦・木材の三次元深絞り加工・2009年度日本木材学会中部支部大会講演要旨集(名古屋) pp62-63
5. 田原聡恵, 中村晋平, 前野和也, 山本祐也, 棚橋光彦, (東京農工大) Siaw Onwona-Agyeman ・高圧水蒸気圧縮成形法による砂漠緑化資材の開発・第60回日本木材学会大会研究発表要旨集(宮崎) p.173
6. 村上 昌紀, 八代田 真人, 後藤 徳彦, 大谷 滋(2010) 飼料米(粳)配合比率が産卵鶏の成績に及ぼす影響. 日本家禽学会 2010年度春季大会.
7. 谷 幸宗, 八代田 真人, 大谷 滋 (2010) 採食時顎運動による放牧牛の採食速度の解析. 2010年度日本草地学会大会(津). 日本草地学会誌, 56(別) 38.
8. 八代田 真人・佛淵 麻衣・川田 里絵・谷 幸宗・大谷 滋(2010) 草地構造の変化がヒツジおよびヤギの採食行動と採食速度に及ぼす影響. 2010年度日本草地学会大会(津). 日本草地学会誌, 56(別)50.
9. 塚本 麻奈, 加藤 里依, 八代田 真人, 大谷 滋(2010) 牧草サイレージおよび製造粕類を主体とした飼料が乳成分および風味に及ぼす影響. 2010年度日本草地学会大会(津). 日本草地学会誌, 56(別) 72.
10. 小笠原利恵・川原勇太・福井博一, アメリカフヨウとフヨウのコルヒチン処理による4倍体個体の作出, 園芸学研究 第9巻別冊1
11. 直井 聡, 石田 仁, 渡辺 康将. スギ、ヒノキ人工林における Behre 型相対幹曲線

の実用評価（日本森林学会講演要旨集 筑波）.

12. 石田 仁・水野 洋平・岩川 裕之・上杉 美智子・八代田 真人, 岐阜県飛騨地方の大面積皆伐跡地における森林更新—森林更新地の分布と地形および前生林分の関係—(日本森林学会講演要旨集 筑波)
13. 水野 洋平・石田 仁・八代田 真人・市森 友貴, 岐阜県飛騨地方の大面積皆伐跡地における森林更新—伐り株からの萌芽が森林更新に及ぼす影響—(日本森林学会講演要旨集 筑波)

第3章 教育研究レポート

フィールドセンターにおける知的障害者雇用の取り組み

矢野倫子

岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター

岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター（以下フィールドセンター）では、平成21年度より知的障害者を技能補佐員として雇用している。本報告では、フィールドセンターにおいて障害者を雇用するに至った経緯と、障害者の日々の作業内容について紹介する。

Key Words: 知的障害者雇用、特別支援学校

1. フィールドセンターにおける障害者雇用の経緯

フィールドセンターでは近年、定員削減によって足りなくなった労力を、パート職員によって補っている。しかし、専門性の高い作業も多いため、このパート職員には農業経験者や山林作業経験者が雇用されている。

そんな中、本学出身で在学中に病気のため重度の記憶障害者となった方が、本学教員の紹介によりフィールドセンターでアルバイトとして雇用された。

雇用期間は、平成20年5月から平成21年3月までであったが、障害者が抱える社会的問題や知的障害者に対する理解が深まり、知的障害者であっても作業内容や指導方法を工夫すれば、十分戦力になり得ると分かり、障害者雇用に本格的に取り組む契機となった。

障害者雇用は、社会全体としても取り組むべき課題となっており、『障害者の雇用の促進等に関する法律』により、特殊法人などでは障害者雇用率2.1%と、民間企業などの1.8%より高い数値目標が課せられている。平成22年1月における職員数が、約2,200名の岐阜大学では、29名以上の障害者を雇用する必要がある。この時点で身体障害者26名、知的障害者2名が職員として在籍しており、平成22年4月に、知的障害者がもう1名雇用されたため、目標が達成された。現状、雇用されている障害者のほとんどが身体障害者であるが、これは本学に限った傾向ではなく、社会全体において知的障害者・精神障害者の雇用が進んでいない。そこで公的機関においては、特に知的障害者の採用を強く推進することが求められている。

フィールドセンターでは、上記のような社会的要請も踏まえ、知的障害者の雇用に取り組むこととなり、平成20年8月と平成21年6月に、知的障害者の教育機関である特別支援学校から、インターンシップ生を受

け入れた。

特別支援学校は、岐阜市周辺では市立岐阜特別支援学校をはじめ、岐阜本巣特別支援学校、大垣特別支援学校などがあり、これらの高等部では、障害者の就労に向けた技能教育が行われている。その中でも園芸班と植物バイオ班は、植物に関する知識や園芸に関する技術をある程度習得していることに加え、一般企業への就労を目指す、障害が比較的軽度である生徒が多数在籍する。フィールドセンターではこの特徴を踏まえ、特別支援学校において園芸班・植物バイオ班だった生徒3名を、インターンシップで受け入れ、その3名を平成21年4月、平成21年12月、平成22年4月にそれぞれ雇用した。

さらに平成21年6月からは、前述した記憶障害者が、雇用期間としては過ぎてしまった終了したものの、障害者本人の希望により、ボランティアとしての受け入れが始まることとなった。なおこれより前に、ボランティアを受け入れたことがなかったため、フィールドセンターとしてボランティア規則を作成した。

また、フィールドセンターとしての障害者の受け入れ準備の一環として、障害者職業生活相談員の資格を2名の職員が取得した。

この、障害者職業生活相談員とは、障害者の職務内容や職業能力の向上、職場の人間関係や職場のルールの指導、障害者の健康管理についての指導などといった、障害者の職場適応をサポートすることが職務となっている。

2. 障害者の日々の業務内容の紹介

2-1 植物部門

写真1は除草の様子である。野菜圃場や花壇、温室内、フィールドセンター周辺などを、範囲ややり方を指導してから行ってもらっている。



写真1 除草の様子

写真2は農場での生産物の収穫作業の様子である。ほうれん草、ブドウ、ブルーベリー、トマト、ねぎなどの収穫作業を手伝ってもらっている。また、収穫だけでなく傷物などの不良品の選別や、販売の規定量に合わせて計量し、袋詰めするところまで行ってもらっている（写真3）。



写真2 収穫作業の様子



写真3 収穫物の計量・袋詰めの様子

写真4はセルトレーへの播種の様子である。種は、直径1mmほどしかない種類もあり、それをピンセットでひとつひとつ置いていくのは、根気と集中力が必要である。初めて行う際には時間がかかっていたが、何度か経験するうちに、徐々に早くできるようになってきている。



写真4 セルトレーへの播種の様子

写真5は水やりの様子である。温室内や屋外に出してある観葉植物、苗物、鉢物にひとつひとつ水をやってもらっている。もしまだ水をやる必要がない鉢などがあれば、あらかじめ伝えておくようにしている。



写真5 水やりの様子

写真6はセンター・研究圃場周辺の垣根の剪定、剪定枝の片付けの様子である。また、果樹園では剪定は技術職員が行い、剪定枝を片付ける作業を障害者に行ってもらっている。

植物部門ではこの他、苗の定植や圃場・ハウス内のマルチング、支柱立て、寒冷紗張り、鉢の移動、トマトなどの誘引や芽かき、施肥、培養土づくりなどの補助を行ってもらっている。

2-2 動物部門

写真7は搾乳の様子である。機械による搾乳前に行う前搾りや、機械で搾りきれなかった分を手で搾る後搾りなどを行ってもらっている。

写真8は乳牛の餌をやっている様子である。牛によって餌の量や種類が異なるため、その牛に合わせて計量・餌やりを行ってもらっている。



写真6 垣根の手入れの様子

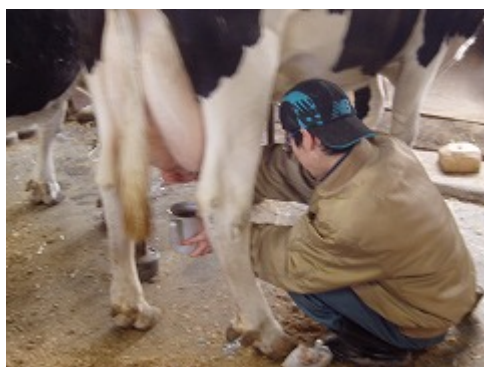


写真7 搾乳の様子



写真8 給餌の様子

写真9は鶏の卵を集めている様子である。この作業の後、集めた卵の計量、卵表面の汚れの除去、ひび割れがあるなどの不良品の選別を行ってもらっている。写真10は鶏舎の除糞の様子である。鶏舎ごとに糞を集め、二輪車で運搬し、鶏糞を乾燥させるハウスに集積している。



写真9 集卵の様子



写真10 除糞の様子

動物部門ではこの他、鶏への給餌・餌を均一にするかきならし、奥美濃古地鶏の管理、鶏の雛へのワクチン接種の補助や、牛舎・鶏舎の床の掃除、乾草の牛舎2階への収納の補助などをやってもらっている。

3. 障害者雇用に対する期待と課題

フィールドセンターにおける障害者雇用は、まだ始まったばかりであり、現段階において軌道に乗っているとは言えないが、この障害者雇用により今後期待できることとして、以下のことが挙げられる。

- ① 技術職員の削減によって縮小してきた教育・研究支援体制と農産物の生産体制が改善され、技術職員の労働負荷を軽減することができる。
- ② 技術職員が行っている単純作業やルーチン業務が軽減されることで、より専門的な知識を発揮した形でセンターの各種事業に携わることができる。
- ③ 障害者を教育・研究機関で雇用し、農場におけるサークル活動や学生実習で学生と関わることにより、学生にとっても福祉の意味や重要性を学ぶ機会になる。

一口に障害者といっても、障害の程度や特徴が個人によって全く異なる。そのため、障害者を雇用するにあたって難しい点は、作業内容の見極めであると考えられる。障害者の特徴を活かし、個人個人に合った作業を行わせることで、フィールドセンターにおける障害者雇用が、より意義のあるものになるよう努めていきたいと考えている。

4. 謝辞

本報告を作成するにあたりご助言・ご指導いただきましたフィールドセンター技術職員一同に、心から感謝の意を表します。

「家庭菜園の基礎 理論と実際」実施報告

神原正昭

岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター

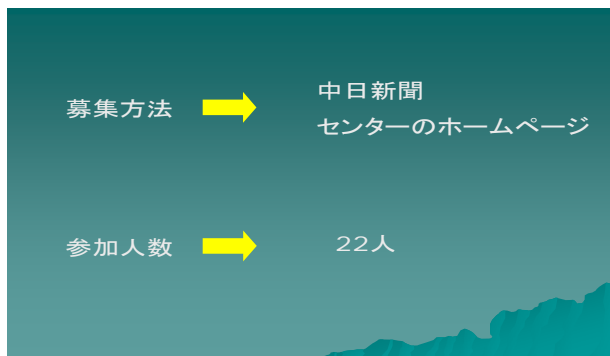
食品の産地偽装、賞味期限の改ざん、農薬入りの中国産餃子、輸入野菜、果物の残留農薬など私たちの食べ物をとりまく環境は、ますます厳しさを増している。人々の関心が食の安全、安心に向かっているときに、安全、安心な野菜を、実際に自分の手で栽培することができる、岐阜大学公開講座「家庭菜園の基礎 理論と実際」を平成 20 年度より開催している。本報告は平成 21 年度に開催した、岐阜大学公開講座「家庭菜園の基礎 理論と実際」の実施内容と結果について報告する。

Key Words : 地域貢献、食の安全・安心、家庭菜園、フィールドセンターの特色

1. はじめに

この公開講座は 20 年度に、大場先生の発案で、フィールドセンターの特色を生かして、地域貢献できる大学の正式な公開講座として開催した。正式な公開講座なので、表-1 ように 15 コマある。「理論と実際」の、理論では、応用生物科学部の先生が講義を行い、実際では、フィールドセンターの技術職員が、技術指導をするという 2 本立てでスタートした。

2. 募集方法と参加人数



		野菜栽培の基礎 I
2	5月10日	野菜栽培の基礎 2
3	6月7日	地球温暖化と稲
4	6月21日	野菜栽培における生物肥料の利用と機能性成分制御
5	7月5日	植物も病気になる
6	7月19日	野菜の保存と流通・食の安全・安心を揺るがす事件
7	8月2日	バーベキュー
8	8月16日	圃場管理
9	8月30日	秋野菜の楽しみ方
10	9月13日	家庭菜園の楽しみ方
11	9月27日	植物と環境の関係
12	10月18日	農業機械の基礎
13	11月8日	熱帯の野菜
14	12月6日	高品質・高生産性の野菜栽培を実現するための被覆栽培
15	1月24日	鍋・終了式

表-1

回	月日	講義内容
1	5月3日	ガイダンス

3. 実施状況

第1回 5月3日

「家庭菜園の基礎 理論と実際」第1回目を開催
 講義 大場先生による「ガイダンス」
 伊藤先生による「野菜栽培の基礎1」
 実習 畝たて、マルチング、野菜苗の定植



第2回 5月10日
 「家庭菜園の基礎 理論と実際」第2回目を開催
 講義 伊藤先生による「野菜栽培の基礎2」
 実習 畝たて、マルチング、定植



第3回 6月7日
 「家庭菜園の基礎 理論と実際」第3回目を開催
 講義 松井先生による「地球温暖化と稲」
 実習 定植、誘引、除草

第4回 6月21日
 「家庭菜園の基礎 理論と実際」第4回目を開催

講義 松原先生による「野菜栽培における生物肥料の利用と機能性成分制御」
 実習 なし（雨）



第5回 7月5日
 「家庭菜園の基礎 理論と実際」第5回目を開催

講義 百町先生による「植物も病気する」
 実習 収穫、除草



第6回 7月19日

「家庭菜園の基礎 理論と実際」第6回目を開催

講義 中野先生による「野菜の保存と流通・食の

安全、安心を揺るがす事件」

実習 収穫、除草



第7回 8月2日

「家庭菜園の基礎 理論と実際」第7回目を開催

講義 なし

実習 収穫、バーベキュー



第8回 8月16日

「家庭菜園の基礎 理論と実際」第8回目を開催

講義 なし

実習 収穫、除草



第9回 8月30日

「家庭菜園の基礎 理論と実際」第9回目を開催

講義 福井先生による「秋野菜の楽しみ方」

実習 収穫、除草



第10回 9月13日

「家庭菜園の基礎 理論と実際」第10回目を開催

講義 神原技術専門職員による「家庭菜園の楽しみ方」

実習 畝たて、定植、収穫、除草



講義 田中先生による「植物と環境の関係」
 実習 収穫、防虫ネット張り、除草

第11回 9月27日
 「家庭菜園の基礎 理論と実際」第11回目を開催
 第12回 10月18日
 「家庭菜園の基礎 理論と実際」第12回目を開催
 講義 三輪先生による「農業機械の基礎」
 実習 機械の使い方、耕起、収穫、除草



講義 嶋津先生による「高品質・高生産量野菜栽培を実現するための被覆栽培」
 実習 実験現場見学、収穫、除草



第13回 11月8日
 「家庭菜園の基礎 理論と実際」第13回目を開催
 講義 宮川先生による「熱帯の野菜」
 実習 収穫、除草

第15回 1月24日
 「家庭菜園の基礎 理論と実際」第15回目を開催
 講義 大場先生による「閉講式」
 実習 収穫、片付け、堆肥散布、鍋



第14回 12月6日
 「家庭菜園の基礎 理論と実際」第14回目を開催

4. まとめ

岐阜大学公開講座「家庭菜園の基礎 理論と実際」の、理論は応用生物科学部の先生方が担当し、実際はフィールドセンターの技術職員が担当するという2本立てで実施してきた。多くの受講生から、「理論と実際」の、理論では大学の先生から専門的な話が聞けて良かった。実際ではフィールドセンターの畑を使い、播種や定植から収穫までが体験できてよかった、の声が寄せられた。特に農業経験の無い受講生には、講義だけでなく実際に体験できることで、理解がより深まると考えられる。今後も、このようなフィールドセンターを利用した体験型公開講座を開催することで大学の地域貢献に協力したいと考えている。

5. 謝辞

本報告を作成するにあたりご助言、ご指導いただいたフィールドセンター技術職員一同に心からの感謝の意を表します。

【 編集・発行 】

岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL : 058-293-2971 FAX : 058-293-2977

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~gufarm/>

Gifu Field Science Center,
Faculty of Applied Biological Sciences,
Gifu University
1-1 Yanagido, Gifu, 501-1193, Japan